

5・20を裁判員制度廃止記念日に！ 日比谷野音集会&銀座デモ

北九州市 ■ 三上 幸子

去年は日比谷公会堂で、今年は日比谷野音での集会。去年は〇〇全国大会と名前の付くものに参加するのが初めてで何かと不安でした。

今年は去年出会った人に会えるかな？と会場に向かいました。のぼり旗がたくさん立ち、多くの人が準備に動いています。事務局の相馬さんへ挨拶、するとその場で着ませんか？と裁判員制度は知らない大運動のシンボルカラーの真っ赤なTシャツを渡された。すぐに羽織る。

午後6時半、同じ真っ赤で登場した司会・滝沢ロコさん（舞台俳優）が「本日の集会は全国から寄せられた多くの賛同で開催されています」と紹介、大きな拍手で始まった。

呼びかけ人・交通ジャーナリストの今井亮一さんは「裁判員制度は、今までの裁判のあり方を反省しない最高裁などがつくった。国民参加でよくなると思うのは甘い」と指摘。

仙台からかけつけた織田信夫弁護士は「大災害で被災地の裁判は停止しているが、江田五月法務大臣は『裁判員になる権利が侵害されるおそれはないのか』と義務を権利と美化するごまかしをしている。原発では地元の人々を安全だとだましていた。同じやり口だ。原発も裁判員制度も廃止しかない」と



日比谷野音の舞台全景

訴えた。

続いて裁判員候補者のみなさんが登壇、実際に呼び出しを受けた福岡の吉田和生さんが、「拒否」「廃止」のゼッケンを付け、裁判官に「辞退ではなく拒否」を突きつけたと報告。

実名を公表して反対運動をしている茨城の丹羽羽夫さんは「相撲で言えば敵の両足が俵にかかっている。あと一押しを浴びせて砂かぶりにたたき落とそう」と呼びかけた。

また、組員やその家族が候補者に選任され、労働組合として組員の裁判員就任拒否の方針を決めた動労千葉の川崎昌弘執行委員からは「労働組合の団結を破壊する裁判員制度には絶対反対。裁判員制度も原発もやめさせよう！」と力強い発言。

カンパアピー

ルの遠藤さきさんは、気仙沼に被災された弟家族を、すぐ食料などを持って行って見た様子を話されました。

呼びかけ人の高山俊吉弁護士が集会アピール。「中東の若者たちが立ち上がり、私たちは抑圧からの解放を国際的に経験した。3.11大地震直後の25日、最高裁は28日から裁判員制度を再開すると言った。人の心が無い。裁判所や東電などの企業が原発も裁判員制度も推進している。しかし、国民は納得してない。最高裁のアンケート調査ですら、やりたくない人は5年前は65%だったが今は84%になった。制度は破綻寸前だ。私たちは廃止する力を持っている」と宣言、大きな拍手と共感の声が上がった。

恒例の各地からの登壇では、長崎、福岡、北九州、広島、大阪、東海、登戸宿、埼玉、松戸、千葉、茨城から活動報告やアピール。初めての参加者の発言などが続き、廃止へ向かって強い絆を結びました。

北九州ではこの大会の4日前5・16午前中に福岡地裁小倉支部前で呼び出しに応じる裁判員候補者、裁判所職員へ大きな横断幕を広げチラシを配り制度



高山俊吉弁護士

の廃止のアピールをした事を報告しました。

その後、820人の集会参加者が「夜の銀座に出かけよう」とデモに出発。

街頭アナウンスで沿道の人に呼びかけました。

くみなさん、私たちは裁判員制度は知らない大運動です。3月25日、最高裁は、被災地でも裁判員裁判を再開せよといたしました。地震、津波、原発事故で避難所生活をしている人たちも呼び出せというのです。最高裁は人の心を持っていません。私たちにとって、生き抜くことが大事です。私たちは人を裁くより支援を行います。原発事故を起こした東京電力は社員名簿を差し出して裁判員制度推進に協力してきました。経団連は裁判員制度を国民が社会貢献することだといいました。裁判所は、数多くの住民の訴えを無視して原発安全のお墨付きを与え続けています。経団連と東電は原発を推進し、裁判員制度に協力しています。私たちは、裁判所や東電が推進する裁判員制度も原発もいりません。一緒に、裁判員制度は知らないの声を上げましょう

さすが花の東京銀座です、夜9時過ぎなのに、街にはたくさんの人です。デモ隊の写真を撮る人も見かけましたし、手を振る人もいました。

東京電力本社前では原発事故に抗議する人たちとエール交換をしました。

去年は1800人の大会参加にワクワク勇気を貰いました。今年は被災されて参加したくても難しい方の分の少しになりたいと参加しました。

表のうたい文句の嘘、それを支え続けたマスゴミ、それを言い訳に今一つ自分で考えることをしな過ぎる国民の姿が、福島で爆発し、ヨーロッパで



銀座をデモ行進 撮影■吉田和生

止まっていく原発に浮き彫りになっている気がします。同じように嘘まみれの薄っぺらな人権意識を振りかざし、国民に合法的人殺しの義務と権限を押し

し付けたのが裁判員制度。降るかな？の雨も無く、たくさんの人と東京の空に向かって大きく声を出し歩いてうれしかった。

裁判員制度を廃止に追い込もう！

斎藤文男さん講演会・北九州

裁判員制度は憲法の自由と民主主義の原理に照らして間違っている

講演：斎藤文男さん（九州大学名誉教授）

とき：2011年9月10日（土）14：00～17：00

ところ：北九州市生涯学習総合センター 3Fホール (093-571-2712)

資料代：500円

主催：「あぶない！裁判員制度」北九州市民集会実行委員会



斎藤文男さんのプロフィール
憲法学。1961年から1996年まで、九州大学教養学部と法学部の教授として教鞭を取った後、名誉教授となる。

傍ら、情報公開条例や政治倫理条例作成をはじめとする地方自治実務関連の市民運動にも数多く携わる。

1995年より2009年3月まで福岡放送「めんたいワイド」のコメントーターとして出演。憲法・行政法、著書に「問われた報道の自由」「メディア・権力・自由」（共著）など多数。



銀座をデモ行進 撮影■吉田和生